

田原本町におけるデジタル交通サービス実証実験の検討

田原本町 企画財政課

1. 田原本町の公共交通における課題（前回の検討内容再掲）

町内の広範囲に公共交通空白地域が存在。空白地域内の主要施設の利用者のほとんどが自家用車で来訪しており、自家用車で移動できない来訪者向けの交通手段がタクシー以外に存在しない。

2. 自動運転の走行ルート上の技術的な課題・問題点（前回の検討内容再掲）

- 踏切の通過
- 幅員狭小な道路でのすれ違い
- 無信号交差点の通行・右折
- 幹線道路（緊急輸送路）での低速走行・渋滞の誘発
- 中央線が黄色の区間での追越
- 路肩・歩道なし区間での自転車との錯綜
- 交差点以外の箇所での歩行者・自転車等の飛出し
- 緊急車両が接近した場合の対応

3. 自動運転の別ルートの検討

来訪者向けの交通手段確保の観点からは、田原本駅の発着は必須。しかし、田原本駅から踏切も幅員狭小な道路も通行せずに公共交通空白地域内の主要施設へ行けるルートは1本のみ。

そして、当該ルートは、中央線が黄色の区間、路肩・歩道なしの区間、無信号交差点の通行・右折、交差点以外の箇所での歩行者・自転車等の飛出し等への対応策が必要になることに加え、これらに対応策を施したとしても大きく迂回するルートとなるため、乗客の利便性が低くなるを得ず、利用が見込めない。また、町内で定時定路線型コミュニティバスを実証運行して交通需要を検証した上で、当該コミュニティバスを自動運転に置き換えていくことも想定していたが、コミュニティバスの受託候補者が運転手不足等を理由として契約締結を辞退したことにより、自動運転の前提となる交通需要の検証ができなくなった。

このような現状においては、第1回協議会において明らかになった技術的な課題・問題点を解消し、かつ、交通需要を検証した上で利用が見込める自動運転のルートを設定することは非常に困難。

4. 今後について

自動運転の走行ルートについて、第1回協議会でご意見を頂戴したところ、様々な課題・問題点があることが明らかとなった。そして、別ルートの検討も非常に困難な状況となっている。公共交通空白地域の移動手段の確保という課題に対して、自動運転の実証運行の可能性を探ってきたが、田原本町としては、コミュニティバスの実証運行が困難となったことから、自動運転を含めた公共交通施策の全体像を再度見直すこととし、従来から実施している高齢者等に対するタクシー初乗り料金助成事業（タワラモトンタクシー事業）の利用者数が伸びていることに加えて、令和5年11月から新たに区域運行型デマンド交通の運行を開始したことにより、これらを拡充していくことによって公共交通空白地域の移動手段の確保という課題の解決を図っていく方向にシフトし、自動運転の実証運行については見送ることとしたい。